

みずほオートリース通信

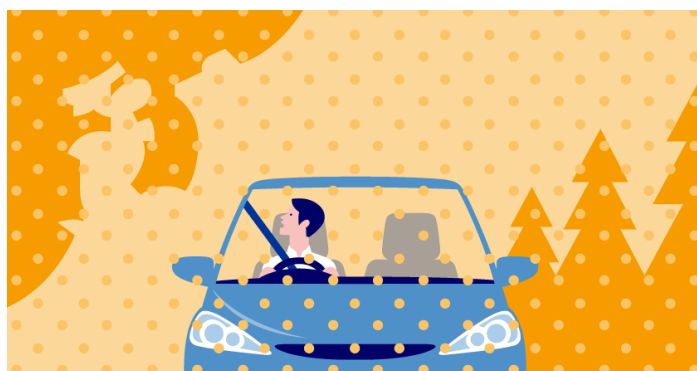
2024年 5月号

車に付着した花粉・黄砂の放置はNG！

春先に多く飛ぶ花粉や黄砂。車に付着したまま放置しておくとシミや腐食などの深刻なダメージを引き起こす場合もあるため注意が必要です。そこで今回は、花粉や黄砂が車に与える影響や汚れを落とす方法について紹介します。

花粉はシミや腐食の原因になることも

例年2月から5月にかけて多く飛ぶ、スギやヒノキの花粉。花粉は非常に小さい粒なのでこれだけであれば汚れは落としやすいのですが、水分と合わさると、花粉内部のタンパク質の一種「ペクチン」が溶け出し、粘着力が強くなり、べったりした質感の汚れになってしまいます。こうなると汚れが落としづらくなるほか、時間が経過するとシミになってしまい、さらにそのまま放置すると塗装の歪みや腐食の原因になる可能性があります。



画像：チューリッヒ保険会社「車についた花粉や黄砂の汚れを除去するには？洗車方法や対策について」より一部引用

<https://www.zurich.co.jp/car/useful/guide/cc-pollen-and-yellow-sand/>

黄砂はボディに傷をつくることも

花粉とともに春先に多くなるのが黄砂です。東アジアの砂漠や黄土地帯からなどの砂やちりが偏西風によって飛来することを黄砂現象と言います。黄砂には鉱物が含まれているため、花粉よりもザラザラした手触りなのが特徴で、車のボディに付着したまま、通常の水量でブラシや布等をつかって洗車をしてしまうと傷をつくる原因にもなります。

花粉や黄砂が車に付着した場合は？

①高圧洗浄機で吹き飛ばす

ボディについた花粉や黄砂を落とすには、高圧洗浄機を利用するのがいいでしょう。水圧が強力な高圧洗浄機で洗車すれば、花粉も黄砂もまとめて落とせますし、ボディに傷をつける心配も少なく済みます。

②たっぷりの水と多めの泡で洗車する

高圧洗浄機がない場合は、たっぷりの水と泡で洗車してもOKです。まずは、水をたっぷり使って花粉と黄砂をできるだけ流します。その後、濃度を上げた洗車シャンプーをよく泡立てて、多めの泡で包み込みように丁寧に洗います。



画像：楽天Carマガジンより一部引用(画像出典：Adobe Stock)
<https://car.rakuten.co.jp/magazine/articles/2022/carwash63>

夏にスタッドレスタイヤを使用するのは危険！

つい交換を忘れて、夏になってもスタッドレスタイヤを使用したり、またタイヤの寿命が近く、スタッドレスタイヤを履きつづすつもりで使用される方も少なくありません。

しかし、冬に性能を発揮するよう作られたスタッドレスタイヤを、夏も履き続けることには危険が伴います。

夏のスタッドレスタイヤがNGな理由

①夏タイヤより雨の路面では滑りやすい

スタッドレスタイヤは雪道や凍結路には強い反面、雨の路面では滑りやすくなります。スタッドレスタイヤは、雪道や凍結路のグリップ力を高めるため、夏タイヤより柔らかいゴムでできています。また、スタッドレスタイヤは表面に無数の小さな穴をつくることでタイヤと氷の間の水分を穴に吸い込ませ、タイヤと氷が密着する仕組みになっています。「ゴムの柔らかさ」「吸水性の高

さ」によって、雪道や凍結路でも安全に走行できるよう作られているのがスタッドレスタイヤです。ところが夏の雨天時には「ゴムの柔らかさ」「吸水性の高さ」が弱点となります。夏タイヤは路面の水分を溝から排出し路面をグリップしていますが、スタッドレスタイヤだとタイヤが水分を吸ってしまう上に、ゴムが柔らかいので溝が変形しやすく、溝の排水機能が十分に働かなくなる恐れがあります。

その結果、タイヤと路面の間に水分が溜まって、「ハイドロプレーニング現象」が起きスリップに繋がる恐れがあります。

②炎天下の熱い路面でバーストしやすい

スタッドレスタイヤは、夏タイヤより柔らかいゴムを使用しているため、夏の暑い路面を走行すると、タイヤが変形しやすく、走行中のバーストにもつながりかねません。

③夏タイヤよりブレーキが利きにくい

「スタッドレスタイヤはグリップ力に優れている」といっても、あくまでも雪道や凍結路の話です。雪や氷のない道路ではスタッドレスタイヤの性能は発揮されず、逆に乾いた路面ではスタッドレスタイヤの方が「制動距離」が長くなるといわれています。

④燃費性能が悪い

柔らかいゴムでできているスタッドレスタイヤは、路面と接する面積が夏タイヤより大きくなり、必然的に路面からタイヤに受ける抵抗も大きくなるため、走行に必要なエネルギーも大きくなります。スタッドレスタイヤの燃費性能は夏タイヤより10%程度落ちるとも言われています。



⑤走行時のノイズが大きい

タイヤのノイズは、タイヤの溝を空気が通り抜ける際に発生します。スタッドレスタイヤは夏タイヤより溝が多いため、ノイズの原因となります。

⑥タイヤの寿命が短くなりやすい

ゴムが柔らかいスタッドレスタイヤは、夏タイヤより摩耗が速くなります。夏も使い続けることで、必要以上に寿命を短くしてしまいます。また、スタッドレスタイヤは、夏タイヤに比べ高価ですのでコスト面からも、冬が過ぎたらできるだけ早く夏タイヤに履き替え、安全運転を心がけましょう。

左：スタッドレスタイヤ

右：夏タイヤ



画像：ブリジストン公式サイト「もっと知りたいスタッドレスタイヤの仕組み（トレッドパターン編）」より一部引用

<https://tire.bridgestone.co.jp/about/maintenance/lifespan/>

出典：下記ウェブサイトを参照し、一部引用のうえ当社で作成

・タイヤ流通センター「夏にスタッドレスタイヤで走るのは危険！理由6つと注意点を解説」<https://www.tokyo-tire.com/column/summer-studless-tires/>

・チューリッヒ保険会社「スタッドレスタイヤは夏に使っていい？雨の日は滑る？」<https://www.zurich.co.jp/car/useful/column/mj-takeoka/10/>

みずほオートリースでは、メンテナンスリースのオプションメニューでタイヤ保管サービスも承っております。
車でお困りのことがあれば弊社営業担当者へご相談ください。

みずほオートリース株式会社